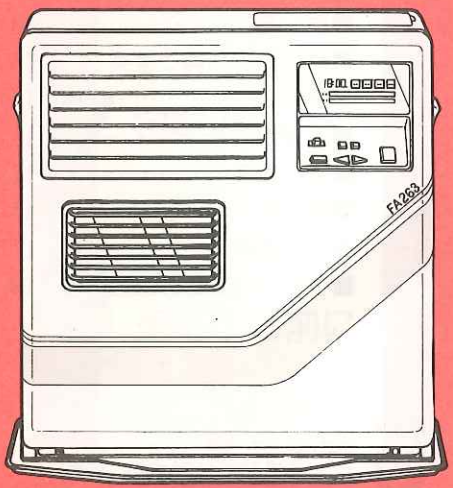
ダイニチ
ブルーヒーター

正しく使って
上手に節約

開放式石油ストーブ

FA-263

取扱説明書・注意書



このたびはダイニチ気化式石油ストーブを、お買い上げいただきまして、ありがとうございました。
お使いになる前に必ずこの取扱説明書・注意書をお読みになって、本機の性能・構造等について充分御理解ください。特に、使用中は1時間に1～2回(1～2分)窓を開けて新鮮な空気を取り入れてください。
また、この取扱説明書・注意書は大切に保管してください。
※同梱の「ご愛用者アンケート」は、必ずご投函ください。

ダイニチ工業株式会社

正しく、安全にお使いいただくために…

もくじ

1 特に注意していただきたいこと

■燃料……2
■変質灯油・不純灯油の注意 2
■使用する場所……3
■給　油……4
■使　用……5
■日常の点検と手入れ……7

2 使用する場所

■安全に使用するために……8
■効果的に使用するために…9

3 各部の名称

■外観図……10
■構造図……10
■表示部と機能……11
■操作部……11

4 使用方法

■使用前の準備……12
■給　油……13
■点火前の準備と確認……14
■点　火……14
■室温の調節……15
■炎の状態……16
■消　火……17
■時刻調節……17
■タイマー運転の方法……18

5 安全装置

■不完全燃焼防止装置……19
■対震自動消火装置……19
■点火安全装置……19
■停電時安全装置……19
■過熱防止装置……19

6 日常の点検・手入れ

■日常の点検……20

7 定期点検……22

8 販売店に連絡する前に……22

9 故障・異常の見分け方と処置方法……23

10 部品交換のしかた

■気化器本体の交換……24

11 保管(長期間使用しない場合)

■準　備……25
■保　管……25

12 仕　様

■仕　様……26
■送油経路図……27
■配線図……27

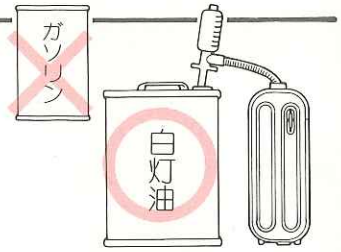
13 アフターサービス

■サービスの依頼……28
■転居される時は……28
■保　証……28
■補修用性能部品の保有期間……28
■メモ(お客様用)……29

1 特に注意していただきたいこと

ストーブの使用、灯油の取扱いで、次の点は特に注意してください。

■燃　　料



1．白灯油（JIS1号灯油）を必ずお使いください。
変質灯油、汚れた油、水の混じっている灯油、ガソリンなどは、絶対に使用しないでください。

2．灯油は必ず火気、雨水、ごみ、高温及び直射日光を避けた場所に保管してください。
できるだけブリキ缶、着色されたポリ容器に入れてしっかりとフタをしてください。

●白灯油とガソリンの簡単な見分け方
白灯油は無色透明、ガソリンは淡いピンク色に着色していますので、透明なコップにとり、白紙を背にして着色の有無を調べます。

■変質灯油・不純灯油の注意

●変質灯油とは…

- 長期間日光が当る場所や、温度の高い場所で保管した白灯油
- 容器のふたをあけて長期間保管した白灯油
- うす黄色に変色し、異臭が感じられる白灯油
- 特に昨シーズンより持ち越しの白灯油は変質していることがあります。

●不純灯油とは…

- 灯油以外の油類（ガソリン・シンナー・天ぷら油・機械油・重油など）が少しでも混入した白灯油
- 水やごみ等が混入した白灯油
- 灯油添加剤、燃焼促進剤などを添加した白灯油

●変質灯油・不純灯油を使用すると…

- 赤火が止まらない
- バーナーの網が赤熱する
- 炎が大きくならない
- 瞬間的に消火しない
- においがひどい

などの症状が出て来ます。

●変質灯油・不純灯油を使ったときは…

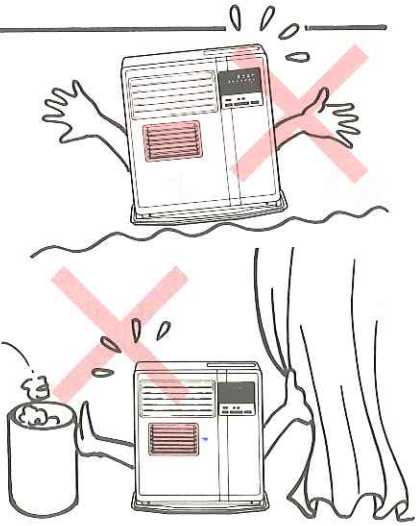
- 油受皿、カートリッジタンク内の灯油をぬき、きれいな白灯油と入れ換えてください。
- それでも効果のない時は気化器の点検をご依頼ください。
- 万一不良灯油を使って故障した場合、点検、修理は有料となります。

●変質灯油・不純灯油を使用しないためには…

- 白灯油以外の油がはいっていた容器や給油ポンプを使用すると不純油等が混入します。
- 古い容器を使うときはきれいな白灯油で内部を2～3回洗ってから使用してください。
- 変質灯油や不純灯油の見分けかたはたいへん難しいので、昨シーズンより持ち越しの白灯油、メーカーのはっきりしない白灯油、極端に安価な白灯油は使用しないようにしてください。
- 特に灯油添加剤、燃焼促進剤などは絶対に使用しないでください。

■使用する場所

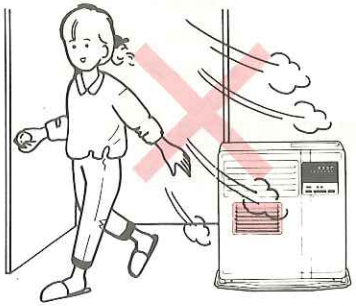
1．水平な場所で使用してください。
振動の激しいところでは、使用しないでください。



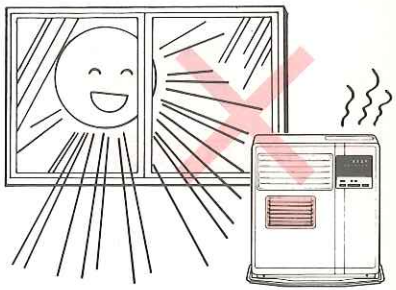
2．カーテンや燃えやすいもののそばなどでは使用しないでください。

3．理・美容院、はんだ付作業所、メッキ・塗装工場などでの使用は避けてください。
屋内でヘアースプレーなどを多量に使用している所、刺激臭の強いガス等の発生している所では、ストーブの金属部分が腐触して短期間で使用不能になることがあります。

4．部屋の出入口などで、人の通るところや風のあたるところでは使用しないでください。



5．直射日光のあたる場所や温度の高い場所では使用しないでください。



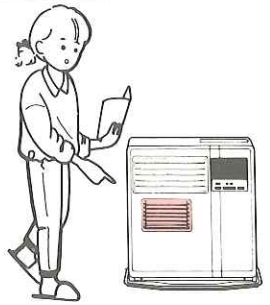
■給　　油

- 給油は、必ず消火してから行ってください。
- こぼれた灯油は、よくふきとってください。
- 給油口口金は、確実にしめてください。

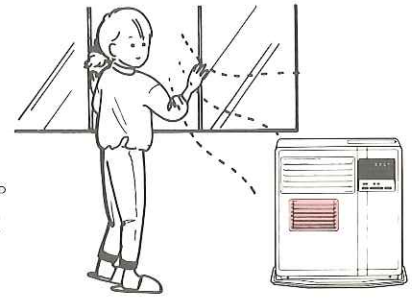
■使　　用

1．対震自動消火装置
- 対震自動消火装置はストーブを水平に置けば自動的にセットされます。

2．燃焼を確認
- 正常に燃焼していることを確かめてください。
（詳しくは16ページ〈炎の状態〉の項をお読みください。）



3．換気必要
- 使用中は、必ず１時間に１～２回（１～２分）換気して、新鮮な空気を補給してください。
換気せずに使用しつづけないでください。
（酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して危険です。）



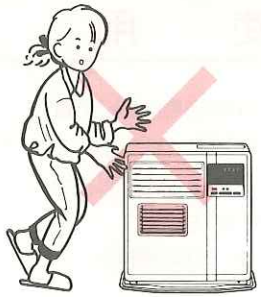
●換気について
- なるべく大きな温度差（部屋の内と外）の得られる窓を広くあけて換気しましょう。
- 換気すると一時的に室温は下がりますが、部屋全体が暖まっていますので2～3分後にはほぼ元の室温に戻ります。

4．衣類の乾燥には使わないで
- 衣類の乾燥などには使用しないでください。
（衣類などをストーブの上に置いたりすると温風の出口がふさがれてしまい、ストーブ内に熱がこもり大変危険です。）

5．高温にご注意

●使用中は温風吹出口やガラス窓など熱い場所には触れないでください。やけどをするおそれがあります。

●温風吹出口、ガラス窓に紙や布などの異物を入れないでください。火災の原因になります。



6．お子さまに注意して

●お子さまやおからだの不自由な方が使用するときは、十分注意をし、温風が直接当たらないようにしてください。

7．燃焼中は持ち運ばないで

●火のついたまま持ち運ばないでください。（転倒すると危険です。）

8．上に物を置かないで

●ストーブの上に物を置いたり腰かけたりしないでください。やけどをしたり本体変形のおそれがあります。

●ストーブの上に水やジュースなどの入った容器を置かないでください。万一こぼれた時には器具内がぬれ、故障の原因となることがあります。

9．寝るとき消火

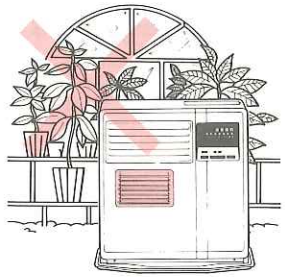
●寝るときや外出するときは、必ず消火してください。

●長時間ストーブのそばをはなれる時も必ず消火してください。

10．人のいない所では使わないで

●乾燥室、温室など人が常にいない所では絶対に使用しないでください。

●動物の飼育や養殖、植物の育成、栽培などにも絶対に使用しないでください。



11．あわてずに消火

●万一異常燃焼を起したときや、緊急の場合でもあわてずにスイッチを切って消してください。
（詳しくは17ページ〈消火〉の項をお読みください。）

■日常の点検と手入れ

1．日常の点検・手入れは必ず行ってください。
（詳しくは20ページをお読みください。）

2．故障・破損したものは使用しないでください。
（不完全な修理は危険です。万一具合が悪くなって処置に困るような場合は、お買求めになった販売店に連絡してください。）

2 使用する場所

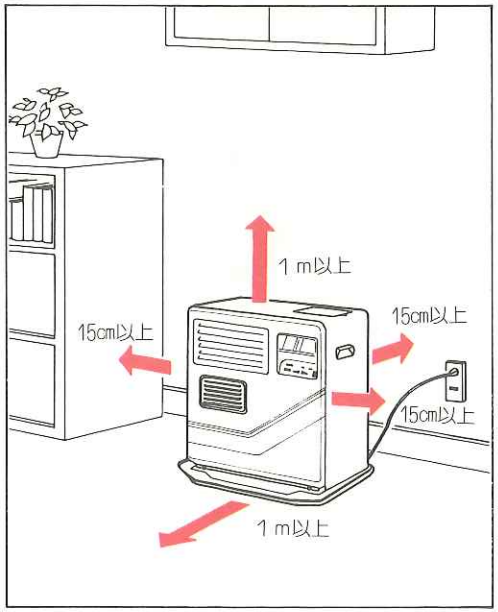
ストーブを安全に、より効果的に使用するためには、場所の選定が大切です。

■安全に使用するために

1．ストーブと周囲の壁・家具などとの間には図に示す以上の距離をおとりください。

次のようなところには置かないでください。

- 周りに燃えやすい物がある場所
- 不安定な棚などの下
- マントルピース内
- ほこりの多い場所
- 人が通るとゆれるような床の上



2．可燃性ガスの発生しない場所又はたまらない場所で使用してください。

3．標高1,000m以上の高地では使用しないでください。

●適正な温度調節をするために

このストーブは背面に取り付けられたルームサーモにより火力を自動調節する機構となっていますので、次のような場所に設置すると正確な室温調節ができず、温度表示ランプも実際の温度と違ってきますので注意してください。

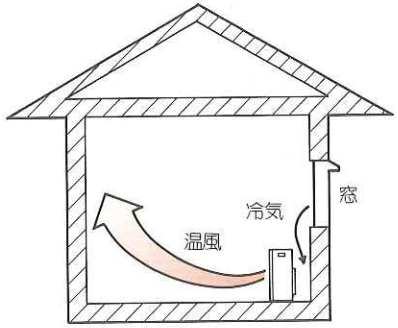
- 器具に直射日光が当る場所
- 出入口の近くなどすき間風が入り込む所
- 調理器具など熱いもののそば

ルームサーモ及び接続部に触れたりひっぱったりしないでください。

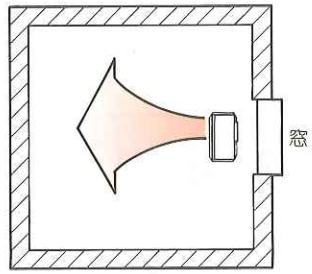
■効果的に使用するために

●ストーブは、外気に接している窓の下などに置くと効果的に暖房できます。

- 窓の下の冷気が暖められ効果的です。



- 温風出口側の空間が広くとれる場所で使用してください。

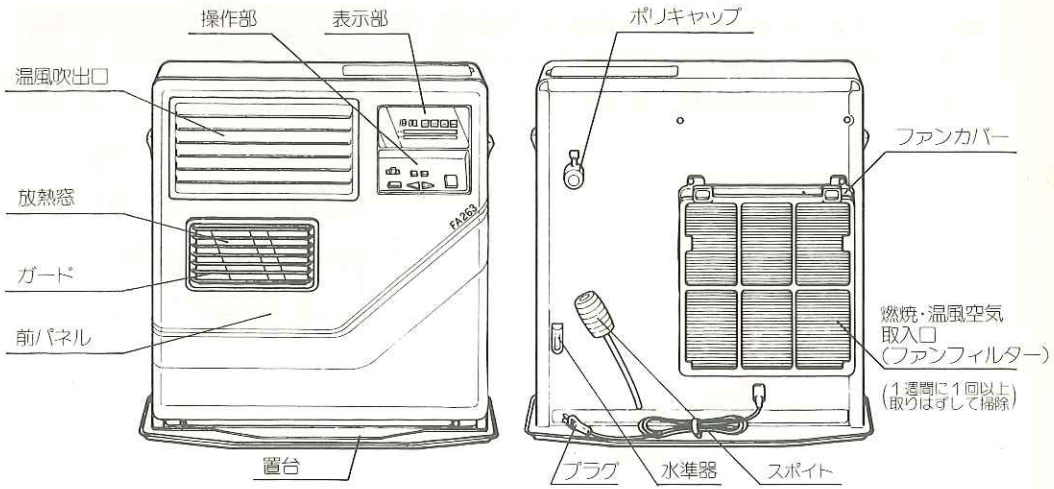


●カーテンやブラインドなどを有効に利用してください。

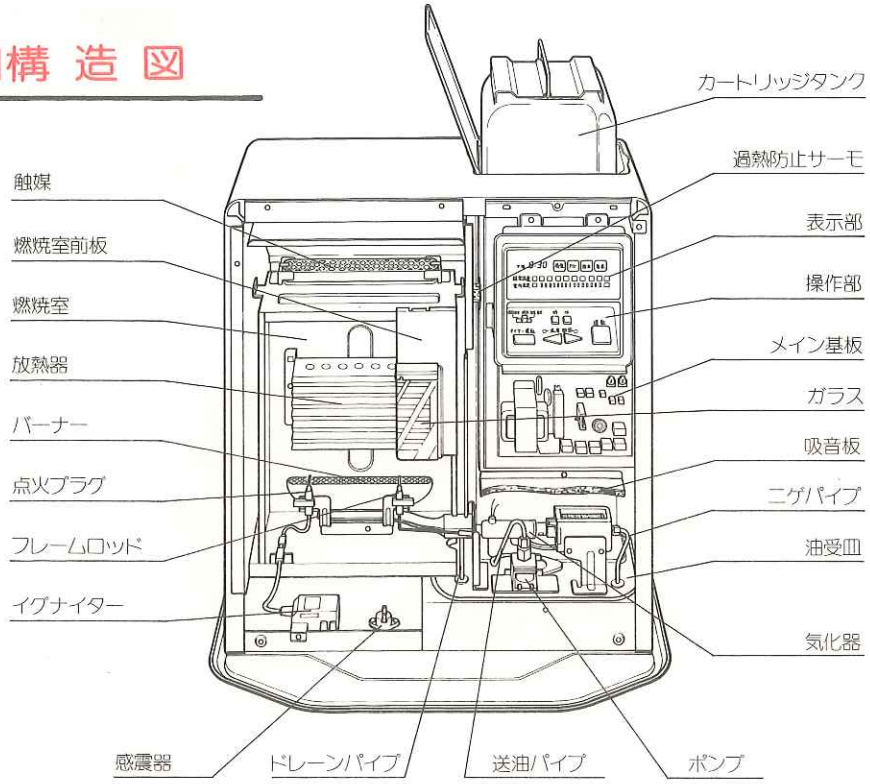
日中……できるだけ太陽の光を家の中に入れるようにします。

夕方・夜間……早目にカーテンなどを閉め、熱を逃がさないようにします。

■外 観 図



■構 造 図



■表示部と機能

時計表示

現在時刻及びタイマー点火希望時刻を表示します。又、安全装置が働いて消火した時にその原因を表示します。

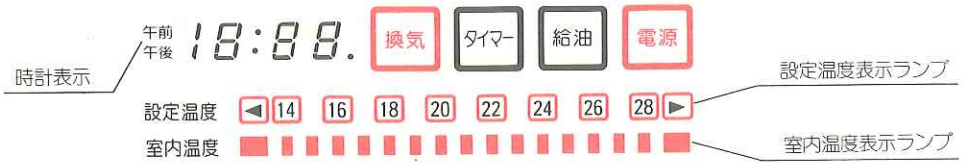
タイマー(青)

点灯―タイマーをセットした時又はタイマーにより点火し、1時間燃焼している時はランプが点灯します。

点滅―1時間燃焼した後、自動消火したことを表わすサインです。

給油(青)

油が少なくなって来るとランプが点滅し、同時に電子音がピッピッと鳴って知らせます。電子音は約10回鳴ってとまります。



換気(赤)

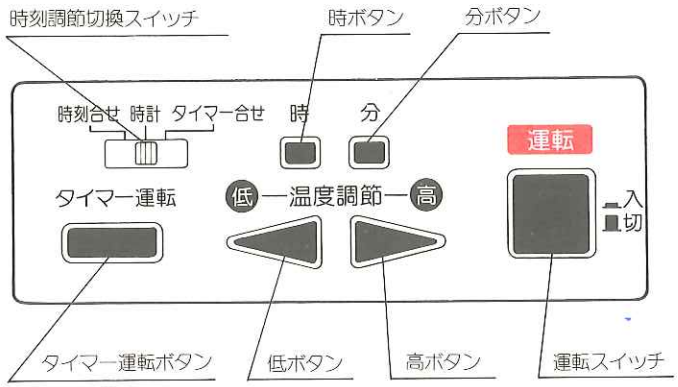
ランプが点滅し、同時に電子音が鳴った時は換気をしてくださいの合図です。電子音は約10回鳴ってとまります。換気をせずにそのまま運転を続けると不完全燃焼防止装置が働いてランプが点滅したまま自動的に消火します。

電源(赤)

点灯―予熱中または燃焼中はランプが点灯します。

点滅―ファンフィルターにほこりがたまるなどにより過熱防止装置が働いた時は点滅します。

■操作部



4 使用方法

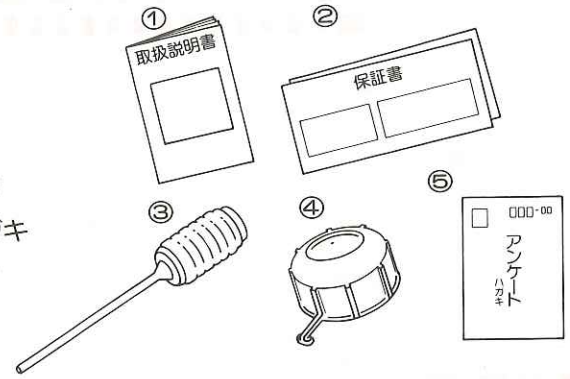
■使用前の準備

1．段ボール箱からストーブを取り出し、パッキン材等を取りのぞいてください。
空き箱は翌シーズンまでのストーブの保管に使用できますので、捨てないようにしましょう。

2．カートリッジタンクのふたを開き、クッション材を取りのぞいてください。

●付属品として次のものが用意されています。取扱説明書・注意書と保証書は紛失しないよう保管しておいてください。

①取扱説明書・注意書
②保証書
③スポイト（本体背面）
④ポリキャップ（本体背面）
⑤ご愛用者アンケートハガキ
（必ずご投函ください。）



■給　　油

●使用燃料

- 使用燃料は白灯油（JIS１号灯油）を使用してください。
- 変質灯油・ガソリン・軽油・廃油などは絶対に使用しないでください。

●給油は必ず消火してから行ってください。

●給油の際の手順と注意

①カートリッジタンクを取り出してから、給油口口金にポリキャップを押し込み、左にまわして取りはずします。

②灯油をこぼさないように注意しながら、油量計の中央まで給油します。

③給油口口金を確実にしめ、ポリキャップを引きはずしてください。

④こぼれた灯油は完全にふきとり、タンクをタンクガイド内にていねいに入れてください。

●給油サイン

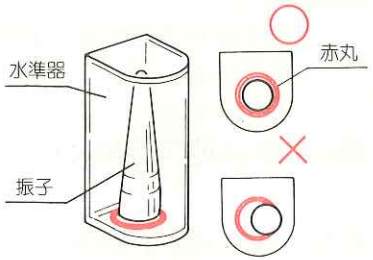
灯油が少なくなって来ますと電子音といっしょに給油ランプが点滅を始め、火力が自動的に最小になります。気がついたら火を消して給油してください。

●給油しても着火しないとき

移動や保管のために灯油を抜き取ったり、給油を忘れて灯油を使い切ってしまった場合には、再び給油した時、灯油が気化器やポンプに回りきらないため、１回では着火しないことがあります。この時は、点火・消火の操作を２～３回繰り返してください。

■点火前の準備と確認

1．水平の確認

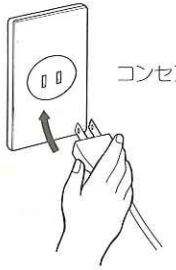


- 水準器により水平になっていることを、確認してください。
  （水準器を真上から見て振子がケースの赤丸内に入るようにします。）
- ストーブを前から見て左上がりに置きますと、給油ランプの点滅が止まらなくなることがありますのでご注意ください。

2．対震自動消火装置のセット

- 対震自動消火装置は常にセットされた状態になっており特にセットの必要はありはせん。ただしストーブが水平に設置されていないと誤作動の原因となることがあります。

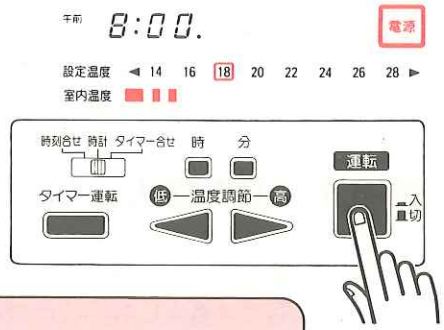
3．電源との接続



- プラグをコンセントに確実にさし込んでください。
- 電源は一般家庭用100Vです。

■点　　火

- 運転スイッチを押して〈入〉にしてください。（電源ランプが点灯）
  約30秒後に自動的に点火します。
  （一回で点火しない場合にはしばらくしてもう一度点火動作をくり返します。）

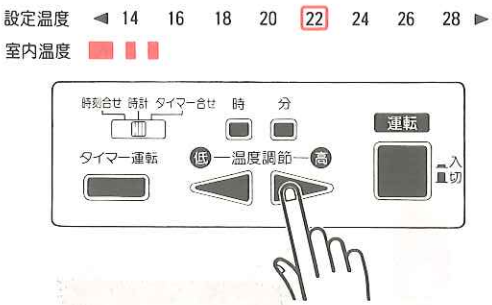


●点火時の注意

点火時にはバーナーから白煙が多少出ることがあります。
すぐに点火すれば異常ではありませんので、そのままご使用ください。

■室温の調節

- 温度調節ボタン高・低を押し、設定温度表示ランプを見ながらお好みの温度にあわせてください。



●設定温度表示の見かた

- 赤い枠で囲まれた数字が設定温度を表わしています。
- 赤い枠が2つある場合はその中間の温度を表わしています。

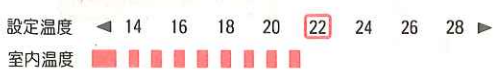
〈例〉

22℃　20　22　24

23℃　20　22　24

- 部屋があたたまるにつれて室内温度表示ランプが左から順に点灯します。室内温度が設定温度に近づく間は必ず最大火力で運転し、それ以後は設定温度を維持するために必要な火力を自動的に選んで運転します。

〈例〉



室内温度21℃の場合

●温度調節時の注意

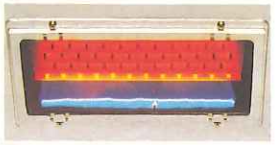
- 室内温度表示ランプと部屋内の寒暖計の温度とは必ずしも一致しません。
- すき間風が入り込む所や直射日光のあたる所にストーブを置くと、室温の自動調節機能が正確に働かないことがあります。
- 狭い部屋や断熱の良い部屋でご使用の時、あるいは気温が比較的高い時などは、最小火力で運転しても室内温度が設定温度を越えることがあります。
- ストーブは消火時の設定温度を記憶していますが、プラグをコンセントから抜いたり、停電があった時は自動的に18℃にリセットされます。

■炎の状態

ブルーヒーターは正常な状態では下図上段のように美しい青い炎で燃焼をしますが、不良灯油を使った場合や換気不足の場合は炎が黄色くなり、火足がのびることがあります。
新しい灯油に変えても直らない時は販売店へ点検・修理を依頼してください。

正常燃焼

○大 火 力



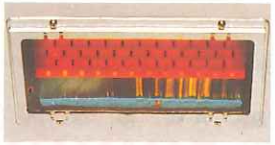
最大火力で正常燃焼している時は青い炎が放熱器を赤熱させます。

○小 火 力

最小火力で正常燃焼している時、炎は放熱器の下にあたる程度の大きさです。

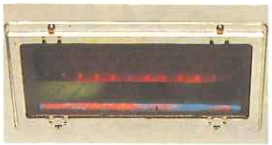
異常燃焼

×換気不足又は不良灯油を使用した場合



換気不足又は不良灯油を使用した場合は、青い炎の中に黄色い炎が何本も現われます。

×気化器ノズルにすすやタールが付着した場合

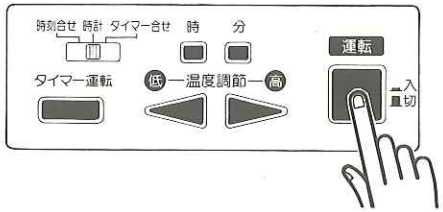


炎が大きくならず、バーナーの網が赤熱します。主に不良灯油を使用した場合におこります。

青い炎の中に時々チラチラと赤い炎が現われますが、これは空気中のほこり等の燃焼によるものです。異常ではありませんので、そのままご使用ください。

■消　　火

●運転スイッチを押しもどして〈切〉にしてください。（電源ランプ消灯）
瞬時に消火します。



■時刻調節

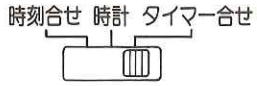
プラグをコンセントに差し込んだ時、時計表示部は午前12:00を表示しながら点滅しています。

●現在時刻のセット

1．時刻調節切換スイッチを[時刻合せ]にします。
2．時計表示部を見ながら[時]・[分]ボタンを押し、現在時刻をセットします。

3．現在時刻をセットしたら切換スイッチを[時計]にもどしてください。

●点火希望時刻のセット

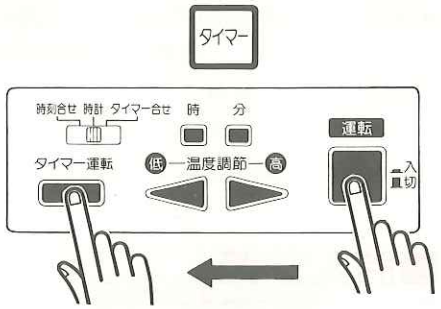


タイマー運転を行うにはまず点火希望時刻をセットします。
1．時刻調節切換スイッチを[タイマー合せ]にします。
2．時計表示部を見ながら[時]・[分]ボタンを押し、点火希望時刻をセットします。

3．点火希望時刻をセットしたら切換スイッチを[時計]に戻してください。

■タイマー運転の方法

1．点火希望時刻をセットします。
2．運転スイッチを入れます。
（電源ランプ点灯）
3．タイマー運転ボタンを押します。
（電源ランプが消灯し、タイマーランプが点灯）



●タイマー運転セット時の注意
現在時刻と点火希望時刻をセットしなければ、タイマー運転はセットできません。

4．点火希望時刻になると自動的に点火します。
（電源ランプ及びタイマーランプが点灯）
5．タイマーにより点火した場合、１時間の燃焼後、自動的に消火します。
（タイマーランプ点滅）

●タイマー運転の解除
燃焼を継続したいときや、点火希望時刻になる前に点火したいときは、もう一度タイマー運転ボタンを押してください。

●タイマー運転中に停電や地震があった場合の処置
- タイマー運転時に停電や地震があると、停電時安全装置や対震自動消火装置が働き、タイマー運転は解除されたまま停止しています。
- 地震があった場合は運転スイッチをいったん〈切〉にした後、入れ直してください。
- 停電があった場合は現在時刻と点火希望時刻をリセットしてください。

安全装置 5

異常が生じたとき作動して、自動的に消火するとともに、作動装置によっては時計表示部に自己診断表示が出ます。

不完全燃焼防止装置

●作動の原因・目的
部屋の換気が充分でないため、燃焼が異常になった時作動して自動的に消火します。（換気ランプの点滅後消火）

●自己診断表示
——

●処置方法
部屋の換気を充分にしてから使用してください。

対震自動消火装置

●作動の原因・目的
強い振動や衝撃を与えたり、傾斜、転倒した時には瞬時に消火します。

●自己診断表示
E 01

●処置方法
運転スイッチを〈切〉にしてから再び〈入〉にしてください。

点火安全装置（炎検知装置）

●作動の原因・目的
何らかの原因で点火ミスしたり、燃焼が中断したときは、電気が切れて自動的に消火します。

●自己診断表示
E 02
（点火ミス）
E 03
（燃焼中断）

●処置方法
「故障・異常の見分け方と処置方法」を参考に原因を調べ処置してください。

停電時安全装置

●作動の原因・目的
停電と同時に消火し、再び通電しても運転は停止したままになっています。

●自己診断表示
——

●処置方法
運転スイッチを〈切〉にしてから再び〈入〉にしてください。

過熱防止装置（フィルターサイン）

●作動の原因・目的
何らかの原因で内部が異常に高温になるとサーモスタットが作動して、瞬時に消火します。

●自己診断表示
E 09

●処置方法
原因を取り除き、本体内部が充分冷えてから再点火してください。

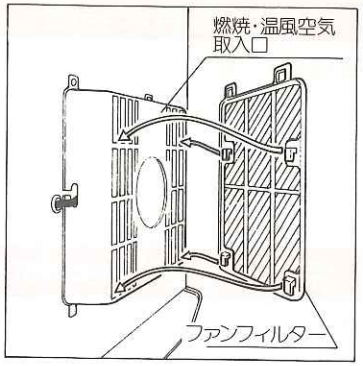
6 日常の点検・手入れ

●点検・手入れのときの注意
- 電源コードのプラグをコンセントに差し込んだまま、点検・手入れを行わないこと。
- 電装品の取りはずしや分解はしないこと。
- 市販部品などと絶対に交換しないこと。

■日常の点検

●ファンフィルターの掃除

- ファンフィルターには、ごみやほこりがたまります。週に1回以上、取りはずして掃除をしてください。



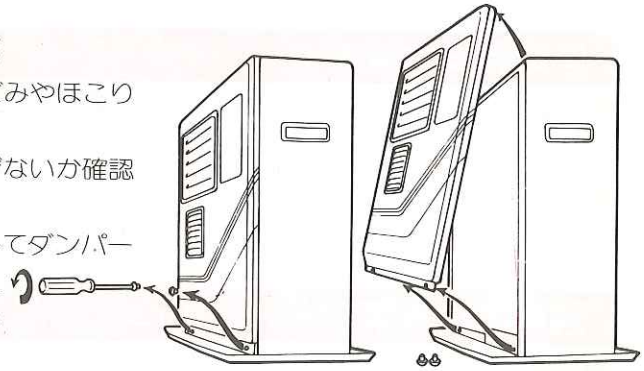
ファンフィルターにたまったほこりを取らずにいると過熱防止装置が働き、燃焼中に消火することがあります。

●対震自動消火装置の点検

- 燃焼中、ストーブを強く振動させた時、消火すれば正常です。

●本体・周辺の掃除

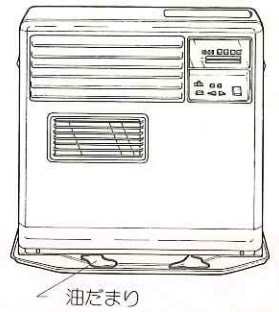
- 置台の上にたまったごみやほこりは掃除してください。
- 本体の周りに可燃物がないか確認してください。
- 時々前パネルをはずしてダンパー部などにたまったほこりを掃除機などで吸いとってください。



前パネルをはずすには、下部のネジ2本をはずし、前パネル下側を手前に引いてから持ち上げてください。また、取り付けの際は先に上部を本体に引っかけてください。

●油漏れの点検

- 置台の上に油がこぼれていないか点検してください。
- 前パネルをはずし、器内に油漏れがないか点検してください。

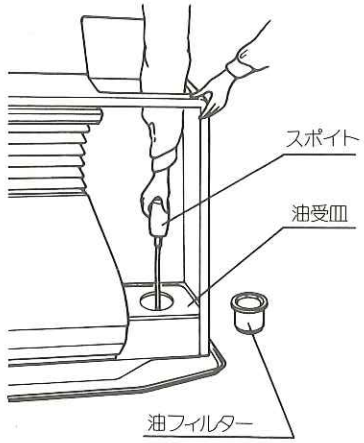


●油フィルターの清掃

- 油フィルターは灯油にまぎれこんだごみなどにより除々に目づまりしていきます。時々取り出してきれいに清掃して下さい。
- 油フィルターを取り出すときは、油フィルターを5cm程持ち上げてから一旦止め、灯油が落ち切ったのち取り出してください。

●油受皿の水抜き

- 油受皿に水がたまっていると着火ミスや立ち消えをおこすことがあります。時々油受皿を点検し、水がたまっていたら付属のスポイトで吸い出してください。
- 油受皿内にごみ等が入っている場合などは、スポイトでできるだけ吸い出してから、乾いたボロ布などできれいにふきとってください。



●燃焼部の点検

- バーナー・点火プラグ等が変形したり汚れたりしていないか時々点検してください。
- 著しく変形又は汚れている場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

7 定期点検

長期間ご使用になりますと機器の点検が必要です。2シーズンに1回程度、シーズン始めやおしまいになる前にお買い上げ店又は修理資格者（財団法人日本石油燃焼機器保守協会で行う技術講習会終了者）のいる店などに点検を依頼されることをおすすめします。（有料）

（この石油ストーブの保証期間は1年間です。保証期間経過後は定期点検をお受けになり、シーズン中の故障や異常の未然防止にお役立てください。）

8 販売店に連絡する前に

次のような状態は故障ではありません。サービスを依頼する前にもう一度確認してください。

状態		説明
初めて使用する時	煙が出たり、においがする。	耐熱塗料などが焼けるためで、1時間ほどでおさまります。
	点火する前に白煙が出る。	灯油の気化ガスに放電着火するまでしばらくバーナーから白煙が出ることがあります。
	放電はするが着火しない。	初めて運転する時は、ポンプ等に充分灯油がまわっていないので着火しないことがあります。 点火操作を2～3回繰り返してください。
通常使用時	燃焼中「シュー」と音がする。	気化した灯油の噴出音です。
	油がなくなって消えたあと1回では点火しない。	ポンプ等に灯油がまわるまで2～3回点火操作を繰り返してください。
	給油ランプの点滅が止まらない。	●本体が水平になっていないと起こります。水準器を見て、水平に直してください。 ●油フィルターや油受皿内に、水がたまっているおそれがあります。21ページを参照して油フィルターや油受皿内の水を吸い出してください。
	室内温度の表示が部屋の寒暖計と一致しない。	室内温度の表示は温風ファンに吸い込まれる空気の温度を表わしています。寒暖計とは必ずしも一致しません。
	燃焼中ときどき「ポコポコ」と音がする。	カートリッジタンク内の灯油が油受皿に送り込まれる音です。
	炎がピンク色又はオレンジ色になる。	超音波加湿器を使用している場合、空気中にほこりが多い場合などには、炎がピンク色又はオレンジ色になることがあります。

故障・異常の見分け方と処置方法 9

●故障・異常が起った時は、この表により点検し、適切な処置をとってください。また、この表では原因のわからない場合や処置がむずかしい場合などは、お買求めの販売店に連絡してください。

現象 ＼ 原因	電源ランプがつかない	いつまで待っても火がつかない	火はつくがすぐに消える	燃焼中に消火する	炎が大きくならない	炎が小さくならない	赤火で燃える	換気ランプが点灯する	においがする	放電するが火がつかない	処置方法	参照するページ
プラグがコンセントから抜けている	●	●		●							プラグをコンセントに差し込む	14
対震自動消火装置が働いた	●	●		●							水平に置いて運転スイッチを入れ直す	14
停電	●	●		●							停電が直ってから運転スイッチを入れる	14
油切れ			●	●	●			●		●	給油する	13
油フィルターなどに水やごみがたまっている。			●	●	●			●		●	油フィルター、油受皿を掃除する	21
ファンフィルターにほこりがたまっている。			●	●			●		●		ファンフィルターを掃除する	20
換気していない				●			●	●			窓を開けて換気する	5
給油のとき油をこぼした									●		油をふきとる	13
ストーブに風があたっている						●					ストーブの置き場所を考える	8
変質灯油・不純灯油の使用			●		●		●	●	●	●	販売店に連絡する	28
気化器の故障	●	●	●	●	●		●	●	●	●	〃	28
点火プラグ、フレームロッドの位置ずれ	●		●	●						●	〃	28
温風ファンモーターの故障				●						●	〃	28
電気部品の故障	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃	28
バーナーの異常							●	●			〃	28

●自己診断表示

安全装置が作動したり、何らかの異常が発生したときなどは、時計表示部に自己診断表示が出ます。

- E 01、E 02、E 03またはE 09の自己診断表示が出たときは、19ページ「安全装置」の項を参照し処置してください。
- 上記以外の自己診断表示の場合はお買い上げの販売店に連絡してください。

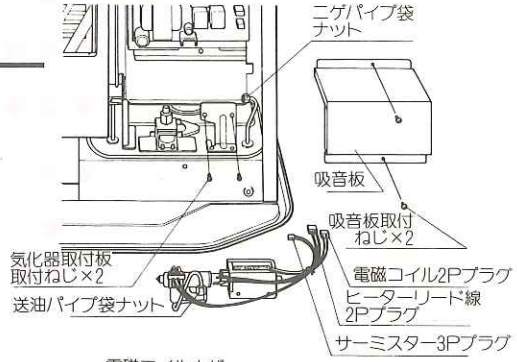
10 部品交換のしかた

- 部品交換が必要になった時は、お買求めの販売店に依頼してください。
- 部品は必ずブルーヒーター専用部品をお使いください。
- 万一の故障で修理が必要になった場合は、財団法人日本石油燃焼機器保守協会で行う技術講習会修了者又は弊社の講習会受講者のいる販売店に依頼されることをお勧めします。

■気化器本体の交換

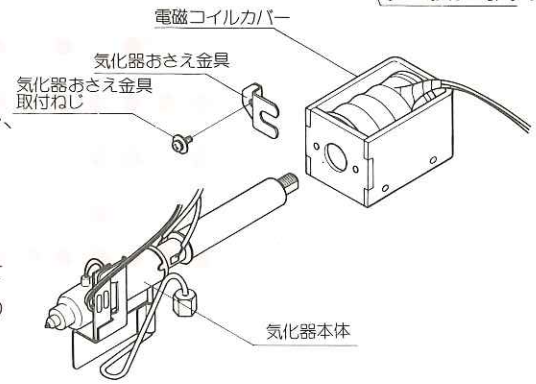
1．気化器の取り外し

- 吸音板をはずし、プリント基板からプラグ3種を引きぬきます。
- 次に送油パイプとニゲパイプの袋ナットをはずし、気化器取付板取付ねじ2本をはずして気化器をとり出します。



2．気化器本体の交換

- 気化器おさえ金具をとりはずし、気化器本体を交換します。



3．組立て

- 逆の順に組立てます。燃焼させて、袋ナットなどから油もれのないことを確認します。

■準　備

1．カートリッジタンクを取り出し、油受皿内の灯油をスポイトで抜きます。
2．油フィルターを灯油で洗ってください。
3．前パネル、ファンフィルター、吸音板及び燃焼室前板をはずして、気化器、基板、ファン、バーナー等のゴミを取り除いてください。
4．プラグをコンセントから抜いて束ねてください。

■保　管

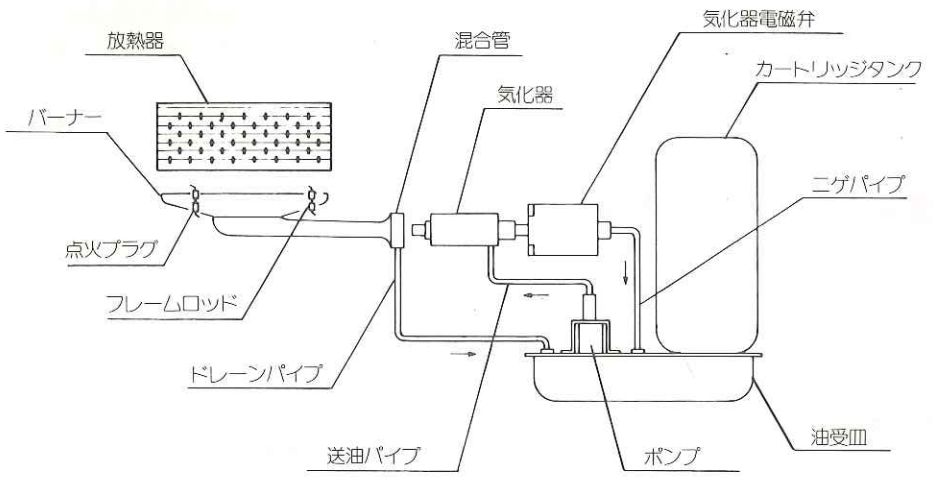
- ほこりや、湿気の少ない所に水平にして保管してください。
- 横にすると残っている灯油が漏れたりしますのでご注意ください。
- 取扱説明書・注意書と保証書はなくさないようにしてください。
  （ストーブとともに保管することをおすすめします。）

■仕　様

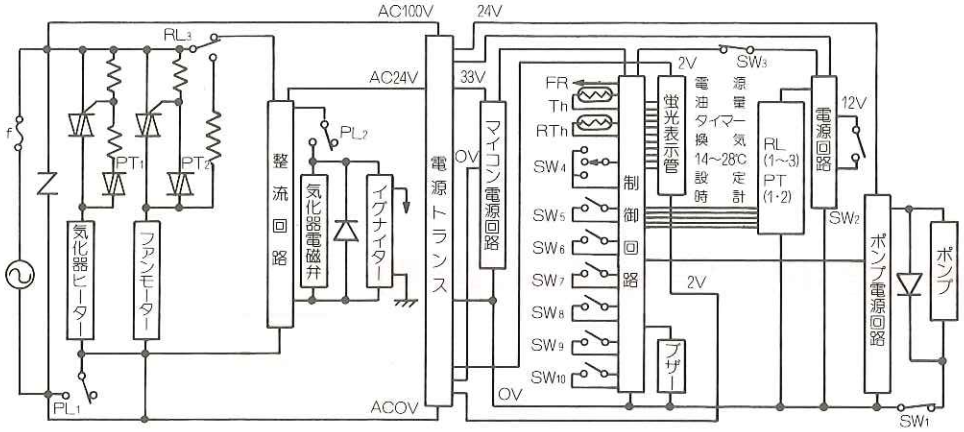
形式の呼び		FA-263
種類		気化式・強制対流形
点火方式		連続放電点火
使用燃料		白灯油(JIS1号灯油)
発熱量(入力)	最大	2,600kcal/h
	最小	1,000kcal/h
燃料消費量	最大	0.316ℓ/h
	最小	0.121ℓ/h
油タンク容量		4.4ℓ
燃焼持続時間		大火力14時間
		小火力36時間
標準適室(東京地区)	木造	8畳まで
	コンクリート	10畳まで
外形寸法(置台を含む)高さ×幅×奥行		487mm×486mm×315mm
重量		約12kg
電源電圧及び周波数		100V　50/60Hz
電源ヒューズ		10A
定格消費電力	点火時	350/350W平均
	燃焼時	大火力平均130/130W
		小火力平均85/85W
温風用送風機	モーター	くまどりモーター
	プロペラファン	200mmφ
安全装置		不完全燃焼防止装置、対震自動消火装置、停電時安全装置、過熱防止装置、点火安全装置
付属品		油・水抜きスポイト、ポリキャップ

上記仕様は製品改良のため、予告なく変更することがあります。

■送油経路図



■配　線　図



SW1 過熱防止サーモ
SW2 運転スイッチ
SW3 感震器
SW4 時刻調節切換(時刻·時刻合わせ·タイマー合わせ)
SW5 時送り
SW6 分送り
SW7 高
SW8 低
SW9 タイマー
SW10 油量

FR 炎検知
Th 気化器サーミスター
RTh 室温サーミスター
PT1、PT2 フォトトライアック
f ヒューズ10A
RL1~RL3 リレー

13 アフターサービス

■サービスの依頼

サービスを依頼される前に23ページ「故障・異常の見分け方と処置方法」および22ページ「販売店に連絡する前に」の項を見て、今一度確認してください。不具合がおありのときはご自分で修理せず、お買求めの販売店にご連絡ください。

■転居される時は

ご転居によりお買い求めの販売店のアフターサービスを受けられなくなる場合は、前もって販売店にご相談ください。

■保　証

- この商品は保証書付きです。保証書は、販売店で所定事項を記入してお渡しいたしますから、記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。
- 保証期間はお買い上げの日から１年間です。修理の際は、保証書を販売店にご提示ください。なお、保証期間中でも有料となることがありますので、保証書をよくお読みください。
- 保証期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。
  修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。当社は、販売店からの注文により、補修用性能部品を販売店に供給します。
- 性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■補修用性能部品の保有期間

ブルーヒーターの補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後６年です。
この期間は通商産業省の指導によるものです。

■メモ（お客様用）

後日のために記入しておいてください。
サービスを依頼されるときお役に立ちます。

ご購入年月日	昭和　　年　　月　　日
購 入 店 名	電話（　　－　　）

MEMO